1 授業が見える

授業の流れを示し，主体的・対話的で深い学びへ

「表現」と「鑑賞」の相互関係を意識し，
一つの題材の中で「表現」と「鑑賞」を一体的に学べるような構成にしています。
学びの流れがひと目でわかるため，生徒が主体的に学習することができます。
また，題材の初めに位置づけた「鑑賞」では，対話が生まれるような問いを示しました。

[表現中心の題材の場合]

目標　生徒に伝わりやすい言葉で，その題材で身につける力を示しました。
「表現」「鑑賞」の領域ごとに簡潔にまとめています。

鑑賞
題材の初めに，表現につながる鑑賞作品を掲載しました。また，対話が生まれるように鑑賞が深まる問いも示しています。

表現 発想 構想
作品の発想を広げ，
構想を練るための具体的な手立てを示しました。
➡ 詳しくはP.6〜7

1年 P.22〜25「心ひかれるこの風景」

編集部 ここがこだわり!
題材の初めの「鑑賞」の問いは，生徒の対話が生まれるよう，何度も議論を重ね，言葉を精選しました。

教科書の流れに沿って授業を組み立てれば，無理なく「表現」と「鑑賞」を関連づけて指導できそうだ。

題材の最初に，必ず鑑賞作品が掲載されているのね！

実際の生徒の制作過程がわかるのはいいね。自分の表現の参考にしたいな。

表現 みんなの工夫
中学生の制作過程を，
段階を追って詳しく示しました。
➡ 詳しくはP.8〜9

鑑賞
題材の最後に鑑賞を位置づけました。
表現活動の後に，作品や作者の言葉を鑑賞することでより学びが深まります。

1 授業が見える

全ての表現題材に，発想や構想の手立てを

表現 発想 構想

表現中心の題材では，全ての題材に発想や構想の具体的な手立てを示しました。
生徒の写真やアイデアスケッチなどを掲載し，
具体的にどのように発想を広げ，構想を練っていくのかがわかります。

1年 P.23「心ひかれるこの風景」

編集部ここがこだわり!

題材ごとに，発想や構想の力を育てるためにどのような手立てがあるか，先生方から広く意見を集め，具体的に示しました。

風景画の題材では，「見慣れた風景を，新しい視点で捉え直してみよう」と投げかけ，光を意識する，構図を考えるなどの手立てを写真とともに詳しく紹介しています。

制作に入る前に，生徒たちにこのページを見せて指導したい！

表現 発想 構想　**身近にある石を，粘土を使ってあらわそう。**

●目と手で感じ取る

石を手に取って，大きさや重さ，触り心地を確認しよう。目をつぶると，より触覚に集中しやすくなる。

「思ったよりも冷たくて，表面はざらざらしている。同じ手触りをあらわせるかな。」

両手に石と粘土をそれぞれ握って量感を確認してみよう。

「石は思ったよりもずっしりと重く感じるよ。どうやったら，ずっしりとした石の量感をあらわせるだろう。」

自分のつくっているものと同じ目線に石を置いて比べてみよう。

「同じ目線で比べてみると，石の形がくっきりと見えてくる。どうやったら本物に近づけるかな。」

●材料や用具の使い方を工夫する

色の見本を参考にしながら，色を混ぜて，本物に近い色をつくり出そう。

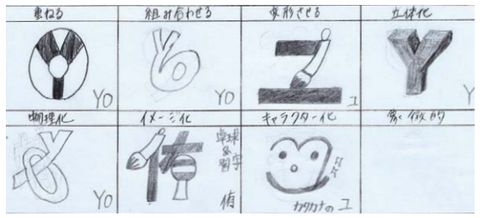
筆だけでなく，雑巾やティッシュペーパーに絵の具をつけ，なじませるように塗ることで，石らしい色むらを表現できる。

生徒作品

石
樹脂粘土，彩色
左：高さ2.8cm
下：高さ3cm

1年 P.15「自然の形や色を見つめて」
自然物を観察して，本物らしく立体であらわす題材では，目を閉じて対象物を触ってみる，両手で対象物を握って量感を確認するなどの手立てを示しました。

表現 発想 構想　**あらわしたい内容からイメージを広げ，見る人の印象に残るマークをつくろう。**



生徒作品

I'm fine　紙，ポスターカラー　14×14cm
自分をあらわすマーク。左はアイデアスケッチ。自分の名前から発想を広げ，七つの案を考えた。片仮名の「ユ」の形をもとに作品を仕上げた。

発想を広げる方法って，いろいろあるんだね。

1年 P.47「印象に残るシンボルマーク」
色や形を工夫して印象に残るシンボルマークをつくる題材では，生徒のアイデアスケッチを掲載しました。

1 授業が見える

生徒の制作過程を詳しく紹介

表現 みんなの工夫

４ページの表現中心の題材では，「みんなの工夫」と題し，２名の生徒の制作過程を詳しく紹介しています。実際の中学生が発想・構想し，試行錯誤しながら作品を制作する過程を知ることで，生徒が自分の表現に生かすことができます。

編集部ここがこだわり!

実際の授業を何度も取材し，作品ができるまでを記録。生き生きとした生徒たちの姿を捉えました。

へえ～！　こんな風に風景を描いていったのか。私だったらどう描こうかな。

試行錯誤して制作している様子が伝わってくる紙面だ。生徒に見せたいなあ。

表現 みんなの工夫　学校の「とっておきの場所」を描こう。

毎日通る道。「これから自分が進んでいく道」として表現したい。

① 奥行きを出すため，画面を縦にすることを決める。

② 「道が続いていく感じ」を表現するため，目線を低くし，風景を何度も確認。

③ 水たまりに映った青空が美しく見えたので，明るい色で強調して描く。

④ 遠近感を出すため，手前の色を重ねて濃くする。

生徒作品
ずっと　紙，鉛筆，アクリル　29.7×21cm

作者の言葉
中学3年間，毎日通る道なので「これから自分が進んでいく道」としてあらわそうと思いました。道が長く伸びて見えるように，遠近感を意識して描くよう心がけました。

校門の横にある緑を見るとほっとする。優しい色合いで描きたい。

① この場所の「優しい雰囲気」を出すため，少し花に近づいた構図を考える。

② 光の当たっている様子をあらわすため，影をしっかり描き込む。

③ 葉の色はそれぞれ違う。風景を見ながら絵の具を混ぜ，さまざまな緑色をつくる。

④ 手前にある白い花は，細い筆を使い，水を少なめにして色をつける。

生徒作品
緑の休憩所　紙，鉛筆，アクリル　21×29.7cm

作者の言葉
小さな白い花がたくさん咲いていて，見ているとほっとする場所です。優しい雰囲気を出すため，全体を淡い緑色にし，光が当たっていることをあらわすために，葉の色に濃淡をつけました。

風景を描いている動画を見てみよう。

1年 P.24「心ひかれるこの風景」

「みんなの工夫」一覧

1年 P.12「見つめ，感じ取り，描く」
「お気に入りのものを描こう」（全3時間）という，1年の最初に行う，描く楽しさを味わわせる授業を取材。

1年 P.24「心ひかれるこの風景」
「自分の宝場所」（全8時間）という，学校の中のとっておきの場所を見つけて描く授業を取材。

1年 P.42「生活をいろどる文様」
自然や身近なものから発想を広げて，文様をデザインする授業（全6時間）を取材。

2･3年 P.8「風景に思いを重ねて」
「私の心の風景を描こう」（全10時間）という，風景に自分の思いを重ねて描く授業を取材。

2･3年 P.46「今の自分，これからの自分」
「今の自分やこれからの自分を描こう」（全8時間）という自分をあらわす授業を取材。

2･3年 P.58「メッセージを伝える」
環境保護を呼びかける
ポスターをつくる授業（全8時間）を取材。

2･3年 P.72「地域の魅力を伝える」
「ふるさとをパッケージング！」（全8時間）という，地域の名産品の魅力が伝わる
パッケージデザインを考える授業を取材。

1 授業が見える

充実した巻末資料

材料や用具，技法，形と色彩など，さまざまな資料を巻末にまとめました。
中学生が取り組みやすい具体例を示しながら，丁寧に解説しています。

1年 P.58〜59「どれで描く？どれで塗る？」 色鉛筆，水彩絵の具，パステルなどの描画材の特徴について詳しく紹介しています。

学習を支える資料・目次

技法や用具の使い方，〔共通事項〕の資料に加え，
発想の広げ方や美術史など，
必要なときに参考にできる巻末資料を充実させました。
ラインアップは下記のとおりです。

1年

描くための材料と用具 どれで描く？どれで塗る？
描くための材料と用具 描いてみよう
描くための材料と用具 さまざまな描き方
描くための材料と用具 版画の楽しみ
生活の中の文字 文字をデザインする
つくるための材料と用具 紙でつくる
つくるための材料と用具 粘土でつくる
つくるための材料と用具 木でつくる
形と色 形の世界を知ろう
形と色 色や光の特徴を知ろう
美術館を楽しもう
美術鑑賞を楽しむ手がかり

2・3年

発想・構想 発想を広げる
映像メディアの活用 写真や映像を撮影する
映像メディアの活用 映像で広がる世界
つくるための材料と用具 金属でつくる
つくるための材料と用具 石でつくる
つくるための材料と用具 材料の可能性
色の世界 色を組み合わせて
色の世界 日本の伝統色
日本美術史 海を越えた文化交流
美術史年表
日本の伝統工芸
日本の世界文化遺産
地域と美術とのつながり
美術の力